

OPINION

中部経済新聞

カザフスタンは天然資源、とくに石油と天然ガスに恵まれています。資源に乏しい日本は、エネルギー製品の重要な輸出先です。カザフスタンは原油、液化天然ガス(LNG)、その他のエネルギー資源を日本に輸出しています。

ナビゲーター

鉱物・金属に関しては、ウランやレアアースを含む鉱物・金属類も日本に輸出していますが、これらは日本の産業およびエネルギー部門にとって重要なものです。

農業関連では、日本はカザフスタンに農業関連の機械、

其 60

日本への期待 世界各地から

望まれる一層の緊密化

設備を輸出しています。日本企業はカザフスタンの農業分野に投資しています。

各種の投資とインフラ開発に関して、日本の企業はエネルギー、インフラ、製造業などわが国のいろいろな分野への投資に関心を示しています。例えば、日本企業は油田・ガス田の開発やインフラ関連のプロジェクトの建設に係わっています。加えて、日本は、カザフスタンにおける交通や都市開発などの開発プロジェクトに対しても、資金援助や技術支援を行っています。

現在の連携と今後の可能性

す。

経済協定に関して両国は、経済協力の発展を目的とした二国間協定をいくつか結んでいます。これらは、貿易、投資保護、二重課税回避などを含む各種の分野をカバーしています。

両国間の経済関係における課題のひとつは、地理的な距離です。カザフスタンは内陸国で、日本から遠く離れているため、輸送費や物流面で多くの課題があります。さらに経済面での障壁は、両国間に直行航空便がないことです。

地理的な距離があるものの、ビジネスや観光面での絆が強まる可能性にもかかわらず、アルマトイやアスタナなどの主要都市と東京や大阪など日本との主要都市を結ぶ民間直行便はありません。

このような接続がないと、経済的・文化的関係は緊密になりません。旅行者やビジネスマンは、中国や韓国経由の乗り継ぎ便を利用しなければならず、時間と費用がかかります。経済の多角化のためカザフスタンは、エネルギー輸出の過度の依存から脱却し

ようとしています。多角化のための努力は、日本企業にとつて非エネルギー分野への投資機会につながります。

カザフスタンのビジネス環境と法的規制の枠組みは改善されつつありますが、日本企業を含む外国投資家にとつては依然として課題が残っています。

「ユーラシア・ランドブリッジ」(新シルクロード)のような特定インフラ・プロジェクトをおし、両国は関係強化に関心を持っています。この構想は、カザフスタン経済において、さらなる協力の可能性が残されている、といえます。

技術や創造的革新における日本の専門性は、農業、製造業や再生可能エネルギーなどの分野において、カザフスタン経済の近代化と多様化の取り組みに貢献するといえます。

結論として、両国は、これまで主にエネルギー資源とインフラ開発を中心に、比較的安全した経済関係を維持してきました。課題は存在するものの、技術移転、インフラ関係、経済多様化といった分野において、さらなる協力の可能性が残されている、といえます。

【グルスム・アクタムデルドウィーバ、リーム中産連】

（月曜日に掲載）